



健康が一番！

東京では、新型コロナウイルスの感染者が二桁と、低い水準で推移している報道が連日流れています。通勤電車はラッシュアワーを取り戻し、時間によっては駅の構内は人人人で、通路が視界に入らない時があります。だからと言って私達はコロナ前の生活様式を取り戻したわけではありません。電車の中や職場ではほとんどの人はマスクを着け、咳やくしゃみによる飛散を防ぐ配慮に満ち溢れています。去年はマスクをつけることが習慣化された為に、インフルエンザの発生件数が極端に減ったとのことでした。かといって、今年もインフルエンザが流行しないという確証はありませんよね。お医者様のお話では予防接種はした方が安心とのことでした。

さて、新たな変異株が出てきてしまいました。その名も「オミクロン型」！

ミクロンとはギリシャ語のアルファベットで「オーミクロン」小さなο。「オーメガ」大きなΩ（決して高級ブランド時計ではありません）とは違う文字のことだそうです。何やら国際情勢に配慮された命名であるとかないとか…。

対応ワクチンが開発されるのでしょうかが何やら馳ごっこ、ウイルス対人間の生存競争か？とも思われますが以



前にもお書きした通り、ともに生物、仲良くななくても共存は宿命でしょうか。うがい手洗い、手指の消毒を欠かさず、一人一人が感染予防を実行することが大切です。十分な睡眠と適度なテニス、栄養に偏りの無い食事、積極的に健康管理に取り組むことが大事と考えます。飲みすぎ厳禁！ 朝起きたら先ずカーテンを開けて、窓を開けて新鮮な空気を深呼吸！

う～～～寒い！

～インターネットの備えは万全ですか？～

事務作業、会員管理システム、掲示物作成、ホームページ運用等々、今やパソコンや携帯電話を触らない日はないと思います。また、それらほぼすべての作業がインターネットを経由していると言っても過言ではありません。

私たちの使用するデバイス（機器）は常に世界に向けて開かれている状態に近いのです。玄関を開け放しで、家の中を覗ける状態にしている方はいないと思います。逆に家の中から、財産を放り投げている方もいないと思います。各種機器は家であり、ウェブ接続口は玄関のようなものです。玄関に鍵をかけるのと同じく、ウェブの世界に向けても適切な鍵をかけましょう。

ネットの世界は、多くの便利さと多くの危険性が混在しています。またその進化が非常に速い世界でもあります。昨日の安全が今日も担保される保証はどこにもありません。適切な管理体制と日頃からの情報収集によるアップデートがセットで運用されて、最低限の安全危機管理が成立すると認識しておく必要があります。



各種使用規定はありますか？

パソコンの使用、個々のアカウントの設定、パスワードの設定および定期的な変更、メール添付ファイル受送信の可否、ウェブ閲覧の制限、ノートPCの持ち出しルール、外部デバイス（USBメモリ等）の使用禁止等、機器の使用に関するルールは明確に定められていますでしょうか。ルールを全スタッフに周知し、またそれが守

られているかの監査をしましょう。

情報管理責任者はいますか？

「人は水」低きに流れるものです。ルールも徐々に緩み、形骸化してしまいます。各種ルールが守られているか、仕組みが古くなっていないか、アップデートはされているか等、管理者が責任を持って運用することが重要です。

制作物の確認

スクール内 POP 等は、必ず責任者または情報管理者が確認をしましょう。誤字脱字のチェックはもちろんですが、使用されているイラストや画像の引用元を確認し、著作権、肖像権、所有権を侵害していないことを確認し、掲示承認を出しましょう。フリー素材をうたっているサイトでも、無料との事実誤認をさせ賠償請求をかける悪質なものもあります。また、個人使用は無料でも商用は有料の場合もあります。規約等はよく確認しましょう。



SNS 運用

Facebook、Instagram、Twitter、ブログその他、SNS を広告宣伝や会員様サービスに活用されている方も多いと思います。インターネットは情報伝達が速いため、炎上や誹謗中傷もあつという間に拡がります。またそれを完全に消すことは不可能です。予め投稿ルールを決めておきましょう。

例：喫煙、アルコール関係は不可・事務所等、バックヤードは写さない等



バックに映り込んだ会員様が識別出来る状態、会員様の名前等が書いてある名簿や書面などが読める状態で写っていると個人情報の漏洩にあたる可能性があります。背景のモニター、テレビ画面、ポスターの選手の画像も、画像に占める割合によっては肖像権の侵害にあたります。

各現場で更新、投稿することが多い SNS ですが、投稿ルール策定と巡回を行いましょう。

動画活用

YouTube 等の動画媒体を宣伝広告に使用するケースが増えてきました。チャンネル登録数、再生回数もここ数年、大きな伸びを見せています。動画は有効な宣伝広告手段ですが、SNS 同様にルールを決め、慎重に運用しましょう。YouTube は運用側の管理が厳しいため、イベント等でバックに流れている音楽についても著作権法違反の判断をします。違法との判断がされた場合、チャンネルを数ヶ月閉鎖される場合もあります。SNS 同様、正しい管理をしましょう。

安全委員会では、新たなカテゴリとして、「インターネット危機管理」に着手いたしました。皆様にご活用いただけるマニュアルを作成し、セミナーを開催したいと考えております。

引き続きよろしくご厚意申し上げます。